

理事会報告

9TH ICG(ブラジル)の際に開催された IGS 理事会報告

熊本大学 大谷 順

4年に一度開催されるIGSの国際会議(第9回)が2010年5月23日~27日にブラジルのサンパウロ市に近いリゾート地グアルジャ(Guaruja)で開催されたが、その会議の前後(22-23日と28-29日)に理事会が開催された。前後というのは、開催前日は2010年までの最後の理事会であり、開催後は2010年より新たに始まる最初の理事会である。今回の理事会はたいへん重要な意味をもつ。それは、1つは会長を務められた龍岡先生の会長任期が満了したことであり、もう1つは、新会長の下で新たなIGSの運営が始まったことである。理事会の詳細については新SecretaryのPeggsによりすでにIGS News(Vol.26, No. 21, July 2010)で報告されているので、詳細はそちらを参照いただき、ここでは上記2つの事項について述べたい。

まずは龍岡会長の任期満了についてであるが、龍岡先生は、補強土やジオシンセティックに関する世界的研究者であることはもちろんであるが、会長として実行されたIGSの改革についてもアドミニストレーターとしての能力を十分に発揮された。その結果として新たなIGSとしての旅立ちを迎えたと言え、先生のIGSにおけるご努力は並大抵ではなかったことをご報告すると共に、感謝の意を表したい。加えて日本支部としてたいへん誇りに思う次第である。IGSは転機を迎えたと言ってもよい。それはもちろん長年Secretaryを勤めたStevensonが退任されたこともあるが、加えてこれまでのIGSの運営体制を大きく見直した点にある。これに関する詳細についても新会長であるZornbergによりすでにIGS News(Vol.26, No.21)で説明されているのでここでは省略する。ポイントは、それぞれの理事の役割をはっきりさせたことであり、またこれまでのCommitteeによる運営に加えて、時限を切って集中的に活動するTask forcesと、新たに設立したTechnical Committeeの運営で構成されている。ちなみにTechnical Committeeの設立についてはわが日本支部より提案して実現したものであり、その1つである“Earth Reinforcement”のCommitteeは日本支部が主体となり、私が代表者を務めることになった。もう1つ重要なことは、桑野理事がAsian Activity Committeeの責任者のひとりとしてアジア地域の学会活動を統括されると共に、次回のアジア会議(2012年にバンコクで開催予定)の企画・運営に参画されることである。

最後に、グアルジャはやはりブラジルということで治安も心配されたが、上記のようにほとんどホテルに缶詰め状態だった我々(龍岡前会長と桑野理事)はそのような経験は全くなかったことに安堵している。一方どこで会議を行っているかということをおぼろげに忘れてしまっていたことはたいへん残念であった。



理事会中の状況



ビーチを背にした全体写真